

**CODE 海外災害援助市民センター
2011 年度 事業報告**

【海外被災地への救援活動事業】

事業名	アフガニスタン救援プロジェクト(ぶどう畑再生支援事業)
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミール・バチャコットの 4 ヶ村。
受益対象者の 範囲及び予定 人数	人口は約 15,000 人、全世帯 1560 世帯。本事業に直接裨益する農業従事者は 519 世帯 (2012 年 3 月末現在)。
実施内容	<p>2007 年からの 3 ヶ年、兵庫県佐用町を提案自治体とした JICA の草の根技術協力事業 (地域提案型)を終えた。以後も現地カウンターパートのラフマンさんとのコンタクトを続け、 学んだ技術が活かされて収量増加にもつながっていることを確認してきた。</p> <p>2010 年度後半から一時、カフェ事業を行っている NPO 法人スローワーク協会(大阪府 高槻市。CODE ボランティア S さんが就労している)と連携してミール・バチャコト産干しぶ どうによるお菓子づくりも試みた。そのお菓子を都市生活コミュニティセンター(西宮市)主 催のアフガン写真展や CODE 寺子屋セミナー、総会、スローワーク協会の関連施設でふる まっていたりなど、広報・啓発的な意味合いでは多くの方に興味を持っていただいた。し かし、輸入ロットや検疫等手続きの問題から本格的に事業化・継続するまでには至ってい ない。</p> <p>2011 年度後半には、現地より新規事業についての提案を受けた。背景には、これまで 同地産ぶどうの重要な市場であったパキスタンでの販売が、政治情勢により実質ストップ されたことによる生活の困窮がある。生産高は増えたが販売手段が乏しいため、生計が 改善しないという状況である。2011 年度末時点で、事務局はこの新規事業の立案につ いて、現地カウンターパートとの調整を続けている。</p>

事業名	サモア・西スマトラ地震救援プロジェクト
実施日時	2009 年 9 月～2011 年 3 月 31 日
実施場所	サモア諸島及びインドネシア・スマトラ島西部パダン県周辺
受益対象者の 範囲及び予定 人数	
実施内容	<p>これまでの報告の通り、CODE 理事の藤野達也さんの所属されていた公益財団法人 PHD 協会の元研修生アリさんが、被災したパダン県の漁村におられたことから、CODE に 集まった寄付全額(100 万円)を PHD 協会に託し、CODE としてこのプロジェクトは終了し た。</p> <p>2011 年 10 月の PHD 協会からの報告では、村に女性の集まる場所がないという状況か ら、多くの人々が使える複合的施設「ふれあいセンター」の建設が決まった。建設資金とし</p>

	ては CODE、神戸市社会福祉協議会、キリスト教団兵庫教区の寄付合計 270 万円が使われる。2012 年 5 月に完成予定とのことである。
--	--

事業名	ハイチ地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 1 月 13 日～継続中
実施場所	ハイチ共和国レオガン
受益対象者の範囲及び予定人数	ラプレ、レオガン周辺住民
実施内容	<p>2010 年度までの活動は以下の通りである。</p> <p>(1)地震直後からメキシコ人研究員のクワウテモックさんを派遣し、医療キャンプのコーディネーターや孤児院のケアにあたった(派遣回数は計 5 回)。経験ある人材を送るという協力方法で、被災地の救援活動に多大なる貢献を行った。</p> <p>(2)被災者団体 ACSIS の緊急物資配布にも資金面から協力を行った。</p> <p>(3)9 月には野崎理事が中・長期的プログラムの立案に向け現地入りし、コミュニティセンター建設(カウンターパート: Ayuda a Haiti)や農業支援(カウンターパート: GEDDH)などのプログラムを提案。そのうち実施に至ったのは次のものである。</p> <p>2010 年度末から、上記の ACSIS をカウンターパートとし、彼らの提案に基づく「被災者経済再建支援プログラム」を開始した。実施場所は ACSIS が拠点としているラプレ周辺である。なお、AC SIS のメンバーには大阪府在住のハイチ人の方がいらっしや、現地とのコンタクトの中継ぎをさせていただいている。</p> <p>このプログラムは、貧しい女性を対象に事業再建資金を貸し付けるもので、被災によって途切れた収入を回復し、生計の立て直しを支援しようとするものである。2011 年 1 月、約 128 万円(約 15,200 ドル)を送金し、AC SIS が 40 人の女性にそれぞれ用途指定で 300 米ドルを貸し付けた。計画では、半年で利子込み 360 米ドルを返済するというものであったが、実際は、返済ができない人が増えているとの報告を受けている。</p> <p>ベーシック・ヒューマン・ニーズを充足する公的サービスにも事欠く状況下での生業支援は困難かもしれないが、自立を支えるという観点から、より良い支援のあり方を再検討したい。ただし、事務局では詳しい現地情報の入手にも限界があることからモニタリング・再調査のための訪問を理事会で決定した。カウンターパートのクワウテモックさんと、それに向けた調整を進めている。</p>

事業名(継続)	チリ地震・津波救援プロジェクト
実施日時	2009 年 2 月 27 日～継続中
実施場所	チリ国コンセプション
受益対象者の範囲及び予定人数	未定

実施内容	特定非営利活動法人災害人道医療支援会(HuMA、東京都世田谷区)への支援を決定したものの、チリ政府筋からの救援依頼がなかったため、全額保留となっている。2011年度計画では、東日本大震災を受け、同じく津波の被災地であるチリとの人的交流(チリの被災者を呼ぶ等)を通じた防災プログラムなどの可能性を模索したが、まだ実施には至っていない。
------	--

事業名	ジャワ島中部地震救援ウォータープロジェクト (通称:呼び水プロジェクト)
実施日時	ジャワ島中部地震救援プロジェクトは2006年5月27日開始。 呼び水プロジェクトは2008年4月1日から継続。
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県パンガン郡ギリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の 範囲及び予定 人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民約130名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ギリセカール村7000名、パンガン郡2万7000名)が裨益すると考えられる。
実施内容	<p>本プロジェクトは、2008年1月～4月のナワンガン集落における水道管敷設事業の後、貧困・若者の都市への流出といった問題にも住民自ら取り組みはじめたことがきっかけで始まった(浮いた水代をプールしてマイクロファイナンスを実施)。CODEはこれを受け、持続可能な暮らしの確保に向けて「JICA 草の根技術協力事業(支援型)」案件(3年間で2500万円以下)への申請を決定し、住民との話し合い・JICA 兵庫との打合せを続けてきた。2010年7月、村井事務局長とスタッフ岡本が現地を訪問したのに続き、2011年9月にも岡本が神戸学院大学防災・社会貢献ユニット浅野壽夫教授の「インドネシア海外研修」に教員として訪問させていただいた。</p> <p>これらの話し合いのなかで、多様な生計改善案がCODE、神戸学院大学、近隣集落の自助グループ、地元行政のプログラムなどから見えてきた。しかし一方で、集落の内部あるいはごく近くから住民をモチベートしたり、計画の実施を促進するリーダー的存在あるいはカウンターパートに欠けていた。また、それを背景に集落の住民も「今の生計手段の延長でできることから始めたい」との結論に至った。このため、JICA 草の根技術協力事業への申請は行わないこととなった。ただし、集落からの具体的な提案があれば、引き続きCODEは会員への寄付呼びかけや助成金申請など、協力を惜しまない旨を伝えている。</p> <p>なお、神戸学院大学浅野教授は2008年度、2010年度、2011年度に続き、2012年度も訪問を予定しておられ、同学がKOBEとナワンガン集落との支えあい・学びあいを継続する大きな力となることが期待される。</p>

事業名	中国・四川省大地震救援プロジェクト
実施日時	2008年5月13日から
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の	四川省北川県光明村村民約700名及び周辺住民

範囲及び予定 人数	
実施内容	<p>(1) 老年活動センター建設</p> <p>当初の予定であった「総合活動センター」(医療施設等を含む)の建設は中国政府によって為されることになったことから、村の方々と協議の上計画を変更し、2010 年度に「老年活動センター」の建設が決定した。2010 年 11 月には調印式に芹田代表理事が出席、2011 年 6 月着工、同 9 月に完成した。</p> <p>土地は、村の中心にあたる 4 世帯に畑を提供していただいた。森に囲まれた静かな場所で、駐車スペースなどを含む総面積は約 1000 平米、センターの築面積は約 380 平米である。釘を一本も使わない伝統軸組み構法で建てられた木造家屋で耐震性も考慮されている。中国の伝統様式である三合院(中庭を中心にしたコの字型のデザイン)になっており、中庭は高齢者の語らいの場や女性たちの踊りの練習にも使われる。内部は娛樂室、休憩室、子ども向け図書室、村民の会議室、震災の記録や伝統構法などを見学できる展示室などが今後設けられる。また、緊急時には避難所としても機能する。</p> <p>2011 年 9 月には完成式(鍵の引き渡し式)も行われ、芹田代表理事やコープこうべの秦理事らにも参加いただき、盛大に式典が催された。2011 年度末時点では内装品がほぼ揃い、完成後に提案のあった木材部分のニス塗りと天井の取り付けが進んでいる。</p> <p>(2) 四川・能登被災地交流会</p> <p>金沢大学と共催で、北川県光明村の被災者ら 4 名を 2012 年 3 月 23 日から 31 日の間、日本に招聘し、東日本大震災の被災者と意見交換、交流を行った。能登半島地震から 5 年となる 25 日には、金沢大学主催のシンポジウム「能登被災地交流会」にも 4 名がパネリストとして登壇された。なお、4 名の行程にかかる費用は金沢大学が 2 名分、CODE が 2 名分を負担した。</p>

事業名	中国・青海省地震救援プロジェクト
実施日時	2010 年 4 月 14 日から
実施場所	中国青海省玉樹県の被災地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	青海省 540 万人、玉樹チベット族自治州人口 28 万人、玉樹県 10 万人
実施内容	<p>直後より 2008 年の四川省地震以来協力いただいている成都市のゲストハウス「Sim's Cozy Garden Hostel」を通して実態把握に努めつつ、救援活動を立ち上げた。また、調査のため、四川省に滞在中のスタッフ吉椿を 2 度青海省に派遣し、同省玉樹で最大の NGO のひとつ「江源発展促進会(Snowland Service Group、SSG)」とのネットワークを築いた。並行して、青海省のラブ地域の僧院と連携して環境問題に取り組んでいるインドネシア人アーティスト、アラフマイアニさんとも情報交換をしながら連携も模索してきた。</p> <p>具体的な支援案としては、当初より「ヤク銀行」の可能性を検討している。これは被災者に母ヤクを提供し、繁殖によって生計を支援するもので、チベット人の文化に根ざし、長く</p>

	自然環境と共生してきた生業である点にも意義がある。実施に向けた話し合いを 2012 年中に現地で行うため、SSG およびラブの僧院と調整を行っている。
--	---

事業名(新規)	インドネシア・ムラピ火山救援プロジェクト
実施日時	2010 年 12 月 10 日から
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ州のムラピ火山噴火による被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	この火山で被害を受けたジョグジャカルタ特別州、中部ジャワ州は 2006 年 5 月のジャワ島中部地震の被災地でもあり、カウンターパートのエコ・プラウトさんや、エコさんを通して知り合ったアーティストのアラフマイアニ・フェイサルさんと連絡をとって情報収集にあたってきた。CODE はアラフマイアニさんから紹介を受けた地元団体「Milas」による被災コミュニティへの農業研修支援をサポートする方向で話を進めていたが、現地インターネット状況等によるコンタクトの取りづらさから、プロジェクト内容の確認、今後のフォローやモニタリングが困難と考え、再度、別の支援策を考え直すこととなった。

事業名(新)	東日本大震災救援プロジェクト
実施日時	2011 年 3 月 14 日～継続中
実施場所	東日本大震災被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	
実施内容	CODE は主に海外の災害復興支援に取り組んできたが、身近な場所で起きたあまりに悲惨な状況を見過ごすことはできないため、まずは募金の呼びかけを開始した。実際の活動については、CODE の村井事務局長が代表を務める国内災害救援の団体「被災地 NGO 協働センター」(神戸市兵庫区)に人的・資金的に協力する形を取った。具体的には、CODE に宛てられた東日本大震災支援活動への寄付金はすべて被災地 NGO 協働センターに委託し、2011 年 4 月～9 月、吉椿・岡本の 2 名の CODE スタッフを被災地 NGO 協働センターに出向させた。

事業名(新)	トルコ東部地震救援プロジェクト
実施日時	2011 年 10 月 23 日～2012 年 3 月 31 日
実施場所	トルコ東部地震被災地
受益対象者の範囲及び予定人数	直接的には該当地域住民数百名～数千名程度

実施内容	地震発生の翌日に募金を開始し、総額 11 万 3000 円のご寄付をいただいた。しかし CODE 単独でプロジェクトを行うには至らないため、当初より被災地ワンやエルジシュなどで医療活動等に取り組んできた特定非営利活動法人アマダ (AMDA、岡山市) に全額を託し、CODE としてはプロジェクトを終了することとなった。AMDA では今後、プレスクール(就学前教育施設)建設およびスポーツ交流を通じた復興支援を行っていく予定である。
------	---

【人材育成事業】

事業名	次期事務局長の育成および事務局体制の充実化
実施日時	2011 年 4 月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	2011 年度より 4 年以内に村井理事が事務局長を後任に引き継ぐ計画に基づき、10 月 1 日よりスタッフ吉椿雅道が事務局次長に就任した。吉椿は四川省地震救援プロジェクトのための現地長期滞在を終え、日本からの同プロジェクトへのサポートを続けながら、現事務局長と分担して事務局業務全般にあたっている。

※従来行ってきた人材育成事業のうち下記については、東日本大震災支援活動に注力するため、本年度は具体的な計画を見合わせ、実施しなかった。

- ・NGO ことはじめ
- ・HAT 神戸内 国際機関訪問ツアー
- ・スタッフのスキルアップ研修
- ・ボランティアの日

【災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	災害情報サイト(CODE World Voice)の運営
実施日時	随時(2002 年からの継続事業)
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	Reliefweb からの翻訳掲載は数件にとどまったが、東日本大震災を受けて、これまで CODE が協働してきた様々な被災地からのメッセージを発信した。また、スタッフを出向させた被災地 NGO 協働センターでは英文ブログで東日本での活動レポートの発信も行っている。これらにより、本事業の目的である「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことに沿った活動ができた。

【ネットワーク構築事業】

事業名	関係機関からの受託事業： 神戸学院大学「防災・社会貢献ユニット」の前期授業企画および講師派遣
実施日時	4月から7月まで、毎週火曜日第4限目
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
受益対象者の 範囲及び予定 人数	約40名
実施内容	CODEとのコラボレーション事業という位置付けで、4年目となる2011年度も継続して神戸学院大学防災・社会貢献ユニットへの講師派遣を下記の通り実施した。 《内容》 第1回(4/14木) ガイダンス:約50名出席(浅野) 第2回(4/21木) CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について(村井) 第3回(4/28木) アフガニスタンと開発援助(村井) 第4回(5/12木) 被災地における足湯ボランティア(藤室玲治) 第5回(5/19木) ハイチ地震から学ぶ(村井) 第6回(5/26木) ジェンダーと災害(斉藤容子) 第7回(6/2木) 災害復興から持続可能な開発プロジェクト(インドネシア・ジョグジャカルタでの取り組み)(岡本千明) 第8回(6/9木) 佐用町水害からの教訓—山と生きる(村井) 第9回(6/16木) 災害時における地域力(織田峰彦) 第10回(6/23木) 災害復興と行政の役割(斉藤富雄) 第11回(6/30木) 地方分権と被災者主体、市民主体とは?(松本誠) 第12回(7/7木) 農業と持続可能な社会(本野一郎) 第13回(7/14木) 減災サイクルともう一つの社会(村井) 第14回(7/21木) ふり返り(浅野・村井) 第15回(7/23木) まとめ(浅野・村井)

事業名	関係機関からの受託事業： JICA 草の根技術協力事業(支援型)の案件形成(インドネシア・呼び水プロジェクトの延長事業)
実施日時	随時(2006年5月27日から)同プロジェクトは2008年4月1日から継続
実施場所	インドネシア・ジョグジャカルタ特別州グヌンキドル県パンガン郡ジリセカール村落内のナワンガン集落
受益対象者の 範囲及び予定 人数	直接的な対象者はナワンガン集落の住民132名だが、モデルケースの確立により、自然条件・経済的条件の類似した周辺住民(ジリセカール村落7000名、パンガン郡2万7000名)が裨益すると考えられる。
実施内容	p.3「ジャワ島中部地震救援プロジェクト」参照。

事業名	関係機関からの受託事業： 関西 NGO 協議会からの講師派遣
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の 範囲及び予定 人数	
実施内容	CODE が正会員となっている関西 NGO 協議会(大阪市)の担当する下記の大学の講義において、同団体からの依頼に基づき講師を努めた。 11月10日 関西学院大学人間福祉学部で「NGO 論」講義(岡本) 11月17日 関西学院大学人間福祉学部で「NGO 論」講義(岡本) 1月18日 龍谷大学経済学部で「国際 NGO 論」講義(村井)

事業名	関係団体への正会員加盟やシンポジウムなどの実行委員会・運営委員会への参加
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の 範囲及び予定 人数	
実施内容	<p>(1)関西 NGO 協議会</p> <p>5月21日 総会に出席(細川)</p> <p>6月22日 理事会に出席(岡本)</p> <p>8月30日 理事会に出席(村井理事)</p> <p>10月25日 理事会に出席(岡本)</p> <p>11月22日 JICA・関西 NGO 協議会主催「防災コミュニティ研修(関西地域)災害に強いコミュニティづくり」打合せ(村井理事)</p> <p>1月10日 理事会に出席(岡本)</p> <p>1月31日 上記「防災コミュニティ研修」に関する打合せ(村井理事)</p> <p>2月9日 上記「防災コミュニティ研修」講師(村井理事)※2月17日、23日、3月1日の全回に同席。</p> <p>3月14日 理事会に出席(村井理事、吉椿、岡本)</p> <p>(2)Tell-Net フォーラム</p> <p>12月6日 実行委員会に出席(細川)</p> <p>1月23日 実行委員会に出席(細川)</p> <p>2月28日 Tell-Net フォーラム 2012(細川)</p>

【「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	CODE 寺子屋セミナー
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の 範囲及び予定 人数	CODE 会員、広く一般
実施内容	下記の通り、寺子屋セミナーを1回実施した。 ・2012年2月25日「 Bangladesh・サイクロン被災地の復興支援について学ぶ」 講師: Bangladesh防災センター(BDPC)所長ムハンマド・サイドウール・ラーマンさん ※JICA・関西 NGO 協議会主催「防災コミュニティ研修(関西地域)災害に強いコミュニティづくり」の講師として来日された機会を活用。参加者15名(定員20名)。

【「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	上半期は東日本大震災支援活動にスタッフを外向させたため行うことができず、下半期のみでは機関誌発行、HP更新など最低限の業務にとどまった。

事業名	救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	CODE主催でプロジェクト報告のみを目的とした会は行わなかったが、上記「CODE 寺子屋セミナー」は Bangladesh事業の報告を含んでいた。 他団体からの講師依頼としては以下のようなものがあった。 8月5日 東北公益文化大学 講義「被災地に寄り添って」(吉椿) 8月31日～9月6日 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット浅野壽夫教授「インドネシア海外研修」への同行(岡本) 9月9日 災害看護学会講演「ひとりひとりができる災害ボランティア」(吉椿) 9月16日 クレオ北・起業サロンで講演(村井理事) 11月10日、17日 関西学院大学人間福祉学部で「NGO論」講義(岡本※再掲)

11月17日	関西学院大学人間福祉学部で「NGO 論」講義(岡本※再掲)
11月26日	神戸大学オープンゼミナールにて講演(吉椿)
11月30日	第21回ロドニー賞受賞式・講演(村井理事)
12月7日	宇都宮大学生国際連携シンポジウム2011「学生とアジア・日本の震災復興を考える～大学の専門性を活かした支援のあり方～」でパネリスト(吉椿)
12月9日	金沢大学震災復興プロジェクト主催シンポジウム「東日本・スマトラ・四川の経験から考える『住み続けられる地域』に向けた復興・再生」で講演(吉椿)
12月12日	JICA アンデス地域災害医療マネージメントコースで講演(村井理事)
12月16日	「東アジアの災害対策協力のあり方」第3回研究会で発表(村井理事) テーマ:「東日本大震災における災害ボランティア支援について」
1月15日	「堺・自由の泉大学」で講演(村井理事)
1月18日	龍谷大学で講義(村井理事※再掲) 園田学園女子大学で講義(吉椿)
1月20日、23日、25日	神戸市立楠高等学校で講義(岡本)
1月23日	テルネットフォーラム実行委員会に出席(細川)
1月27日	明石高齢者大学「あかねが丘学園」で講演(吉椿)
1月29日	兵庫県広域防災センター「防災リーダー研修」で講義(村井理事)
2月6日～16日	四川省地震第21次派遣(吉椿)
2月9日	JICA・関西 NGO 協議会主催「防災コミュニティ研修(関西地域) 災害に強いコミュニティづくり」講義および協力(村井理事※再掲)
3月4日	コープこうべ第4地区「平和のつどい」で講演(吉椿)
3月12日	兵庫県立大学学生ボランティアサークル LAN で講義(吉椿)
3月23日	国際ケアリング学会「ケアリングと平和」市民公開講座で講演(吉椿)

事業名	機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関誌は年3回発行 インターネットは随時発信
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	機関誌は全国各地 700 人／団体 インターネットは不特定多数
実施内容	・機関誌は 2011 年 7 月に 1 回発行した。 ・インターネットでの情報発信は、東日本大震災とトルコ東部地震にかかる必要最低限の情報にとどまった。 ・その他の情報発信については、上半期は東日本大震災支援活動にスタッフを外向させたため行うことができず、下半期のみでは十分にできなかった。

事業名	冊子及び書籍等の発行及び支援グッズの販売
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の 範囲及び予定 人数	不特定多数
実施内容	上半期は東日本大震災支援活動にスタッフを出向させたため行うことができず、下半期のみでは本事業に対して十分な活動ができなかった。

【その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	CODE AID 設立のための情報収集及び研究
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、理事会
受益対象者の 範囲及び予定 人数	広く、今後の CODE 活動対象地
実施内容	<p>本事業については発足以来検討されてきたものの、2010 年度までは実質、このようなファンドづくりは難しいという記載を続けてきた。しかし、2010 年末からの「タイガーマスク」現象や東日本大震災による寄付の増加などのうねりを受け、再度議論を行った。</p> <p>2011 年 10 月の理事会で、3 年以上動いていない複数のプロジェクトの資金総額 2158 万 5235 円を一括して、災害時の初動資金をサポートする CODE AID (CODE 支援基金) を立ち上げることが承認された。</p> <p>体制としては、芹田代表理事のもと別途事務局を整備し、また、透明性の確保および「CODE は“KOBE”(広く阪神・淡路大震災の被災地)の市民一人ひとりものである」という意識の共有のためにも各界の方々による諮問委員会を設けることとなった。認定 NPO 法人の取得を視野に、基金運営にも詳しいメンバーにご協力いただきつつ手続き面の情報収集を始めたところである。</p>

事業名	CODE スタッフへの奨学金制度の継続について
実施日時	随時
実施場所	
受益対象者の 範囲及び予定 人数	直接裨益するものは若干名
実施内容	<p>本奨学金制度は、2005 年度にはじまり 2011 年度で 7 年目となった。初年度の該当者で元 CODE スタッフ齊藤容子さんの留学に際する壮行会にて集まった資金 53 万円を元手として、全額が奨学金として手渡された。以後の該当者はなかったため実施してこなかった。なお、齊藤さんの返済により、2011 年度末の基金残高は 269,000 円(2011 年度入金 118,000</p>

	円)となっている。
--	-----------

S

事業名	CODE 設立 10 周年記念事業について
実施日時	事業実施予定日は 2013 年 2 月 3 日
実施場所	神戸市内
受益対象者の 範囲及び予定 人数	CODE 関係者および一般にも広く呼びかける
実施内容	2002 年 12 月の NPO 法人登録から 10 周年を迎えるのを機に、これまでの活動を振り返り、基本理念「困ったときはお互い様」「支えあいと学びあい」「最後のひとりまで」を再確認する場を設けることとした。2012 年 2 月の理事会の議論では、プロジェクト地から被災者やカウンターパートを呼んでシンポジウムを行う方針である。支援者や一般の方々にも広くお声掛けし、これまでの感謝を表し今後のさらなる協力を呼びかける。この場が CODE AID の出発点となるということを理事会で合意した。